

研究課題名	3次救急病院における頭蓋内腫瘍患者の実態調査
研究機関名	武蔵野赤十字病院
研究責任者	所属 脳神経外科 氏名 中野 智行
研究期間	(西暦) 2023年 7月 ~ (西暦) 2024年 3月
研究の意義・目的	本邦において、年間約30,000人が頭蓋内腫瘍を罹患する。悪性脳腫瘍は難治性で、予後が悪く、生命を脅かす疾患である。一方、良性の脳腫瘍であったとしても、腫瘍の局在によっては神経症状を呈し、生活の質を大きく損なう可能性がある。治療介入に際しては、早期発見も重要であるが、発見後早期の治療介入が患者の予後に関わる当施設における脳腫瘍患者の実態を調査することにより、多摩地区における脳腫瘍の治療実態を分析できる。本研究により発見から治療に至るプロセスの実態を分析することで、問題点を明るみにし、より早期の発見・治療介入への一助となると考えられる。
研究の方法 (対象期間含む)	頭蓋内腫瘍の症例を後方視的に調査する。下記の条件を満たす症例を調査対象とする。 1) 頭部CTまたはMRIにおいて、頭蓋内腫瘍を認めた患者。 2) 2018年1月1日から2022年12月31日までに当施設脳神経外科に入院し、初めて治療(手術、放射線治療等)を行った患者(2017年12月31日以前に診断されていた患者も含む)。 3) 積極的治療介入(手術、放射線治療等)が行われなくとも、2018年1月1日から2022年12月31日までに頭蓋内腫瘍と診断され、当施設脳神経外科に入院した患者。 調査内容は年齢、性別、診断日、当施設脳神経外科紹介日、入院日、治療介入日、退院日、再発日、最終生存確認日、当施設脳神経外科受診経緯、診断時の症状、頭蓋内腫瘍の部位、病変数、治療介入の内容、頭蓋内腫瘍の病理診断、入院時・退院時のKPS(Karnofsky Performance Status)、転帰である。
①試料・情報の利用 目的及び利用方法 (匿名加工する場合や 他機関へ提供される場 合はその方法含む) ②利用し、又は提供す る試料・情報の項目 ③利用する者の範囲 ④試料・情報の管理 について責任を有す る者の氏名又は名称	①電子カルテ上に記載されている診療記録から上記調査項目を抽出する。研究実施に係る情報を取扱う際は、研究独自の番号を付して匿名化し、研究対象者の秘密保護に十分に配慮する。あわせて研究独自の番号と研究対象者の個人情報との対応表を作成して保管する。研究の結果を公表する際は、氏名、生年月日などの直ちに研究対象者を特定できる情報を含まないよう十分注意する。また、研究の目的以外に、研究で得られた研究対象者の情報を使用しない。 ②上記「研究の方法」で記載。 ③本研究の研究責任者および研究分担者。 ④研究責任者である中野 智行
問合せ先	当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ 〒180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1 武蔵野赤十字病院 所属 脳神経外科 氏名 中野 智行・玉置 正史 TEL : 0422-32-3111 (代表) 6812 (事務局内線) FAX : 0422-32-3525

